



わはは祭り御礼

10月7日(日)『わはは祭り2018』に、多数ご参加いただき誠に有難うございました。今年のテーマは、「祝20周年♡きらり樋井川めぐり愛」としました。当会は、この樋井川地区に事業所を開設し、早いもので20年になります。この度のお祭りはこの20周年を兼ねたイベントの意味もありました。台風25号による事故等もなく、お祭りを無事開催できたことを感謝申し上げます。

当日は、葦の家、えーる油山の仲間たちや、保護者、地域の皆様方による、ステージ、アトラクション、物品販売、バザー、各種模擬店などを予定していましたが、当会はこのお祭りを迎えるにあたって、4回の実行委員会を重ね万全を期しましたが、台風のため例年より少し規模を縮小したお祭りになりました。しかしながら、午後から青空が広がり、それとともに来場される方も増え、例年の活気もどったようで、このお祭りを開催できて良かったと主催者一同喜んでいきます。

ステージでは、長尾中学校吹奏楽部の皆さんの演奏からはじまり、初出場のロックバンド・パーシーズの皆さんによる演奏、同じく初出場のあふりかじゃんぐるの皆さんによる打楽器、キッズダンサーズ、坂本勝則さん&わははダンサーズの踊りで盛り上がりました。あふりかじゃんぐるの皆さんの楽器は、珍しくて元気な音が出るので、仲間たちも大喜び、跳んだり跳ねたりの楽しい会場となりました。

当日、ご参加いただいた長尾中学校、長尾病院、地域でご活躍中の皆様、民生委員・児童委員協議会の皆様、そして地元の福岡大学をはじめ、ボランティアの皆様ありがとうございました。お祭りが地域住民の方々との交流の場として、また、障がい福祉や利用者の方々に対するご理解を深めていただく場として、これからも続いていきますことを私たちは願います。地域の皆様、仲間、保護者、スタッフ、来場者の皆様のご健康とご多幸を祈念しまして感謝の言葉といたします。

社会福祉法人葦の家福祉会
理事長 福山 良弘



ふつうの生活の実現をめざして

法人には、10名の親がいない方、最重度の方々が利用するホームがあり、スタッフは、法人理念である“障がいがあっても地域の中でふつうの生活を”の実現を願い支援にあたっています。“ふつうの生活”とはどのようなことでしょうか…衣食住、入浴に加え、散歩、買い物、団らんや映画鑑賞、スポーツ観戦、レストランの利用、通院や公共料金の支払い、選挙などなど。しかし、ホームの障がいが高くマンツーマンの介助が必要な仲間たちは、コンビニへ年に数回しか行けず、散歩さえままなりません。現在、ホームに市からの助成はなく、自助努力で職員を加配し運営を続けていますが、介護で精一杯で外出支援の余力はありません。また、移動支援や行動援護の支給要件が厳しく、ヘルパーの活用も厳しい状況です。福岡市は、障がいの重度化、高齢化、親亡き後の対策を見据え、グループホームの拡充を障がい福祉の重点施策として打ち出していますが、具体的施策に結びついていません。ホームの仲間たちも、人として、地域でふつうの生活を送りたいという願いがあることを皆さんご自身の生活を想起していただき、助成制度の拡充にご理解をください。

新しい地域作りを願って

認知症であってもなくても、誰もが助け合ってともに暮らすまちづくりを目指し、当事者や家族、支援者、一般の方が一緒になって取り組むRUN伴（ランとも）に、法人として、毎年参加しています。今年は、清掃活動をしながら、地域カフェ上長尾テラス～すまいるホーム～宝台団地のコースにホームの仲間たちも参加しました。参加分野も高齢、環境、社協に障がいも加わり、これからの新しい地域デザインを予感させる取り組みになりました。

（法人本部長：友廣）

採用活動に取り組んでいます！

葦の家福祉会では安定した事業運営、専門性のある支援環境の構築を進めていくために、計画的な採用活動を展開しています。介護人材不足が深刻化している中、人材の確保は法人運営の最重要課題です。今年度も良質な人材の確保に向けて取り組んでまいりました。おかげさまで次年度採用の職員に関しては概ね計画通りの内定者数を出すことができました。内定者の方々も障がい福祉に向けた意欲が高く、次年度からの活躍を期待しているところです。

しかし、グループホームすてっぷの再開や療育事業等への展開など、法人が目指している地域展開を考えると、今後、更なる人材の確保が必要となってきます。年度末には転職組の動きもありますし、年明けからは次々年度採用に向けた動きも始まります。今後も良質な人材確保に向けた動きに取り組んでいきたいと思えます。

（法人本部事務局長：末次）

わはは祭り 2018 のご報告

今年は祭り開催の1週間前に台風25号が発生し、祭りの当日・前日くらいに最接近となりそうだと予報が流れ、開催についての検討を繰り返すこととなりました。最終的に前日10月6日の準備は中止し、当日は朝から準備を行い、模擬店及び各ブース出店を縮小した形で、体育館のステージや武道館でのバザーを中心としたお祭りとして開催いたしました。

前日準備からお願いしていたボランティアさんには、急きょキャンセルをお伝えすることとなり、ご迷惑をおかけしてしまいました。しかし、当日は堤地区を中心とした地域の方々や大学、専門学校、長尾中学校PTA、長尾病院、個人の方々等にステージ出演や模擬店出店、各種企画、着ぐるみによるにぎやかしなどのお手伝いをいただき、合計114名のボランティアさんに参加していただきました。

体育館ステージでは、地域の方々の出演によるバンド演奏やダンス披露などのさまざまなパフォーマンスのほか、長尾中学校吹奏楽部の皆さんによる演奏で盛り上がりました。

今回も城南区「ふれあい城南フェスティバル」、福岡市の「ユニバーサル都市・福岡」の関連イベントとしても位置付けられ、行政とも連携した形で開催することができました。

当日は台風一過の天候の中、約600名（推定）の方々にご来場頂き、仲間たちやスタッフ、ボランティアも合わせると、当日約1,100名の方々がこの会場に集い、盛会のうちに祭りを終えることができました。台風の接近に伴い、開催が危ぶまれたお祭りとなりましたが、地域の皆様のお力をお借りすることで無事開催することができました。今後も葦の家福祉会の仲間たちと一緒に続けてまいりますので、未永くご支援いただきますようお願いいたします。

(わはは祭り全体調整担当：佐々木)





堤運動会



10月14日（日）堤小学校校庭で堤校区大運動会が開催されました。当初の予定は9月30日でしたが台風のため延期になり、参加する仲間たちも「今度はあるかな～」と開催を心配していました。当日は、そんな心配をよそに見事な秋晴れとなりました。

9町内の対抗戦で行なわれ、葦の家福祉会からは、葦の家・すまいるホーム・りーどの仲間と職員が樋井川4丁目に参加し、えーる油山の職員は東油山Aに参加しました。仲間たちは宝釣り競争やパン食い競争に参加し、素敵な景品やおいしいパンをゲットしていました。職員は得点競争の目玉「町内対抗リレー」に参加し、町内の皆さんから大きな声援を受け、頑張って走りました。休憩のテントでは、仲間たちも応援団に参加させていただき、みんなで団結して盛り上がることができました。

えーる油山が東油山に開所して3年目になり、この運動会に東油山の一員として参加するのも3回目となりました。初めての参加の時は顔なじみの方がおらず心細い思いをしましたが、今年は町内会長さんをはじめ、ご近所の方と一緒に観戦することができ、地域清掃や防災訓練、日々のごあいさつを通して顔なじみの関係づくりができてきたことを実感することができました。

（えーる油山サービス管理責任者：岡村）



葦の家福祉会実践研究発表会のご案内

社会福祉法人葦の家福祉会の理念は、「障がいがあっても地域の中でふつうの暮らし」を実現することです。この理念の下、平成25年度より毎年法人内の各事業所がその年の実践研究内容を発表し、支援員の資質向上及び次年度の事業推進を図るため新しい形で実践研究発表会を実施してきました。平成30年度は第6回を迎えます。今年度のテーマは、「利用者（なかま）の生活づくりと地域福祉づくり」～法人内外の事業所間連携と地域福祉づくり、特に地域住民の方と医療、福祉、教育の分野が連動した地域福祉づくりを考えるその2～です。特に通所事業所では、思いを相手に伝えるコミュニケーション力と意思伝達力の向上をめざすものです。また、第2部としてシンポジウムを開催し、テーマを「地域福祉づくりと障がい児者の生活づくり」とし、地域・教育・保健・医療の連携を探りたいと思います。多くの方の参加をお待ち申し上げます。（葦の家施設長：小関）



◇ 日時：平成31年2月24日 13:00～16:30

◇ 開催場所は現在調整中です。参加希望の方は1月以降に法人までご連絡ください。



葦の家（生活介護）

11月6日・7日の2日間、大分県へ宿泊旅行に行ってきました。2日間を通して、普段とは違う仲間たちの素敵な顔に出会うことができ、また、職員としては日々の生活の中で関わることのできない支援での学びがあり、充実した旅行となりました。



1日目は桧原運動公園を出発し、西鉄観光バスに乗って湯布院へと向かいました。バス車内ではバスレクでの絵描きリレーや風船まわしゲームを楽しみ、少し緊張していた仲間の顔も徐々にほぐれていく様子が見られました。湯布院では班ごとに分か



れ、湯の坪街道にて食べ歩きや金鱗湖周辺の散策を楽しみました。ソフトクリームや名物の金賞コロッケを美味しく口にいっぱい頬張り満足そうな仲間の姿や、慣れない人ごみの中で緊張している仲間の姿も見られました。

夜は別府杉乃井ホテルに宿泊し、バイキングや温泉を堪能しました。大勢の人の中での食事や入浴は仲間だけでなく職員も介助面では慣れないところがたくさんありました。

温泉でリラックスしたり、ベットの中でぐっすり眠り体を休めていたり、仲間たちの新鮮な姿が印象的でした。2日目は城島高原パークに行き、アトラクションに乗りはしゃぐ仲間の姿に職員も一緒になって楽しい時間を過ごしました。



宿泊旅行が終わり、仲間との会話の中で「旅行楽しかった、また行きたい」という言葉を聞くことができました。普段の作業に一生懸命取り組んでいる仲間にとって、素敵な2日間になったと思います。2日間葦の家の仲間・職員が無事に旅行を楽しむことができたのも、たくさんの方々にご協力頂いたからだと思っています。他事業所の職員の方、ボランティアの方にも応援頂きありがとうございました。また、次回の仲間たちとの旅行に向けて頑張っていきたいと思います。（支援員：岩倉）



えーる油山（多機能型：就労継続 B 型+生活介護）

10月23日火曜日に佐賀県武雄市にある佐賀県立宇宙科学館「ゆめぎんが」にバスハイクに行ってきました。大型バス（福祉バス）に乗って移動しました。景色を見ながらニコニコしている仲間の顔が印象に残っています。車内ではレクリエーションも行ない、全員でボール回しをして盛り上がりました！ ゆめぎんがでは、宇宙船を模したアトラクションを楽しんだり、恐竜の化石に興味深そうに眺める仲間や、職員でも恐い、スペースサイクリング（高いところにある一本橋を自転車で渡るアトラクション）を楽しんだり、その他にもソフトクリームを食べたりと仲間一人ひとりに合った「ゆめぎんが」を楽しむことが出来ました。（支援員：坂本）



特別支援学校放課後等支援事業（屋形原・若久）

秋晴れが続き、外へ出るのが気持ちの良い季節。運動場や近くの公園へ遊びに行き、どんぐり・落ち葉ひろいなど、秋の季節を楽しんでいます。

秋のイベントの中でも特に楽しみにしている活動は、毎年恒例のハロウィーンです。カボチャのお化けの工作に取り組み、みんなで分担してルーム内を飾りつけました。ハロウィーンイベント当日は魔法使いやおばけなど、子どもたちの好きなものに変身！学校の職員室までお菓子を貰いに行きました。張り切っている子どもいれば、照れている子どももいましたが「お菓子をくれなきゃイタズラするぞー！！」の合い言葉で学校の先生方やスタッフ、子どもたちも笑顔に包まれました。子どもたちは、「ねえ、次のハロウィーンはいつしようか？」と来年のハロウィーンを今から心待ちにしているようでした。（放課後等支援責任者：中司）



ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ

現在、日本の障がい福祉制度は、大きな転換期を迎えようとしています。障がいの重度化、家族の高齢化に対してホームヘルプ、ショートステイ等の基盤整備が早期に求められています。「障がい者の地域生活移行支援」の重要な政策的課題として、早急に検討されなければなりません。

障がい者の地域生活移行とは、住まいを施設や病院から家庭や地域に戻すことではなく、障がい者個人が市民として、自ら選んだ住まいで安心して自分らしい暮らしを実現することです。

福岡市障がい者等地域生活支援協議会に、この地域移行を推進するための新たな手法や施策について検討を行うための「地域生活移行部会」が設置されました。この部会の委員に、生活支援事業所連絡会の役員代表として参加しています。

グループホームでは利用者の居宅支援の支給時間が充分でない、利用者の移動支援、行動援護等の外出支援がなかなか認められないといった課題があります。

法人のホームでの、様々な実践や課題を発信し、障がいの重い人たちがホームで必要な支援を受けながらいきいきと生活できるよう実現に向け取り組んでいます。

(ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ主任：上片野)

相談支援（基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ）

相談支援センターでは、日々の個別相談とは別に、地域福祉の基盤づくりのための様々な取り組みを実施しています。今回はその一部をご紹介します。

地域の身近な福祉の相談窓口として、市民の皆様もお馴染みの地域包括支援センター（いきいきセンター）や社会福祉協議会がありますが、堤校区では地域包括支援センター主催で「地域連携会議（地域交流会）」を開催し、民生委員の方々と地域の社会資源について各グループで意見を出し合う企画を実施しました。

子どもの分野では、障がい児に限らず、すべての子どもたちが地域社会の中で地域に見守られながらすくすくと育っていけるよう「城南区要保護児童支援地域協議会」が子どもの支援の輪を広げる活動を行っており、当センターは、この協議会にも参加しています。最近では「城南区子どもの虐待防止研修会」が開催され、当センター相談員も子どもたちの今について学ぶことができました。

このように、直接ご利用者やご家族などから相談を受けるだけでなく、地域の福祉課題にも目を向けながら、子ども、障がい者、高齢者など地域で生活する方々が暮らしやすい街づくりを目指して地道な活動を重ねています。これらの取り組みの中で、障がいのある人が地域で暮らしていくための必要な仕組みとして「地域生活支援拠点等整備」が提言されています。「相談」「緊急受入・対応」「体験の場・機会」「専門性」「地域づくり」といった5つの機能を各地域（拠点）で確保していきましょうという考え方です。これらの機能を確保していくには地域の力はなくてはならない存在だと痛感しています。まだまだ取り組みとしては力不足な面が多々ありますが、地域に根ざした活動を実践してこられた他機関の皆様のご協力をいただきながら、一步一步進んでいけたらと思っています。

(主任コーディネーター：田中)



グループホーム（すてっぷ・すまいるホーム）

すまいるホームでは10月に2つの地域の行事に参加しました。1つは、RUN伴（ランとも）、もう1つは地域の防災訓練です。

RUN伴とは、認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつつりレーしながら1つのタスキをつなぎゴールを目指す全国プロジェクトです。今回は、上長尾テラス～すまいるホーム～宝台団地といったルート伴走に参加しました。様々な年齢の方が参加されていて約2時間かけて清掃しながら歩いてきました。葦の家付近を通った時には、昔の駄ヶ原川の様子を聞いたり、



ホームの仲間たちが葦の家の紹介をしたりといった交流を図ることができました。ゴールの宝台団地では、認知症の方への支援ミニ講座やおにぎり交流会もありとても充実した1日でした。

次に、地域防災訓練です。すまいるホームは、樋井川3丁目2区に所属します。町内の防災訓練には、実行委員会から参加をさせていただきました。当日避難した後、樋井川中央公園で「車いす操作講座」「簡易担架づくり」「新聞紙スリッパづくり」を体験しました。「車いす操作講座」はホームの職員が担い、地域の方々に基本操作をお伝えする事ができました。地域の方からは、「人手が足りなかったら、逃げるとき迎えにこようか？」や「実際に、病院で車いす操作に困った人がいたので教えることができた！」などのお声をかけていただきました。



この2つの行事に参加することで、様々な方との触れ合うことができ、私たちが暮らしている地域をより知ることができた日でもありました。



（管理者：藤）

社会福祉法人 葦の家福祉会だより 平成30年12月号

発行日 平成30年12月1日

編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会

〒814-0153 福岡市城南区樋井川4丁目1-17

〈代表〉Tel 092-873-7481 Fax 092-834-3362

E-mail asinoie@blue.ocn.ne.jp

URL <http://www.ashi.sakura.ne.jp>